

学校お助け隊通信

第2号

先生たちに“ちょっとほっとする”支援を届けます

発行 国際心理科学研究所
令和7年5月

特集 すべての子どもに「安心して通える学校」を

不登校“予防”から始める伴走型支援のご紹介

「最近、朝の教室に行けない子が増えてきた」
「でも、まだ“本格的な不登校”とは言えない状態で…」
そんな現場の声を、私たちは日々伺っています。



**不登校が“顕在化”する前にこそ、
できることがあります。**

学校お助け隊の「不登校防止支援」は、次の3つの視点から予防的なアプローチを行います：

- ① 子どもたちの“つまずき”を見逃さない「現状把握」
アンケートや既存データを活用し、学校ごとに異なる不登校の背景や兆候を可視化します。
教職員の感覚だけに頼らず、学校全体で“気づける目”を養います。

- ② 学校を「安心していられる場所」にする環境づくり
授業・休み時間・人間関係…日常のあらゆる場面に“ちょっとしたつまずき”は潜んでいます。
子どもが安心して過ごせる空間や関係性を整えることで、未然に不登校を防ぎます。
例：別室の整備、教員へのコンサルテーション、学級運営支援など。



- ③ 保護者・教員との連携強化
「親にはどう伝えたら？」
「先生として、どう関われば？」
悩みや戸惑いを抱える教職員・保護者を支えるため、相談対応や研修、事例を共有しながら伴走します。

コラム 心理の窓 「ちょっと一息、5月のころこケア」

「5月は、ころこの“気圧”がゆっくり下がる時期」

新しい環境にがんばってきた子どもたちも、先生方も、ちょっと息切れしやすい頃です。

もし、教室でいつもより静かな子がいたら、「大丈夫？」と声をかけるより、そっと隣に座ってみてください。

その“沈黙”に、ホッとする子もいます。

まずは、先生ご自身が“ホッとできる時間”を大切に。

それが、子どもたちにも伝わります。

耳寄り情報

文科省「支援が必要な児童生徒に関するハンドブック」ご存じですか？

文部科学省が出している「通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある児童生徒等への指導についての参考資料」は、

- ◆ 事例付き
- ◆ 支援アイデアが豊富
- ◆ 教室での配慮ポイントが具体的

など、現場でそのまま使える内容が満載！
短時間で読めるページも多く、「時間が無いけど何か知りたい」ときの強い味方！

PDFは文科省HPからダウンロード可能！

「子どもに寄り添い、先生を支え、未来を育てる。」

～心理・福祉・教育の専門力で、すべての子どもが心豊かに育つ環境を～



成長×支援を届ける会社
株式会社 国際心理科学研究所
Mail: sinkaken@int-psl.com